

新春座談会

市長を囲んで

新しい芽を育てる そういう年にしたい

住みよい大館をつくるため、数々の事業やビッグプロジェクトを推進する年、平成六年が幕を開けました。取材活動を通じ大館を考えてきた広報おだて市民リポーターの皆さんに、明日の大館について市長と対談していただきました。



市長 昨年は本当にいいことも悪いこともありました。秋田職業能力開発短期大学校が四月に開校して百十六名の一年生が入学し、来年度の推薦入学にもたくさん申し込みがあり、順調に滑り出しています。二つ目の短大となる秋田桂城短大も平成八年開校を目前に申請されるというので喜んでいきます。これで生徒だけでも七百人ぐらいになるんですね。先生やら職員やらで相当の人口増が望めると期待しています。

空港建設は五年度に事業着手、ドーム球場も昨年設計コンペがスタートし、県北でただ一つの総合福祉エリアも今年基本設計

に取りかかります。

こういういいことがあった反面、困ったこともあったわけで、ヒョウ害からスタートしましてね、そして冷害。胸がぶれる思いだったですね。そして花岡鉱業の操業休止の問題が出てきました。気持ちが高揚したりがっかりしたり、浮き沈みの激しい年だったなあという印象です。



小畑 市長

明けて今年は、一つひとつのプロジェクトや考えていたことが、一歩も二歩も先に進む年だと思っています。

例えば、農業の問題にしても、今までと違った新しい農業を展開しなきゃいけないということ、ハウスをやりましょうとか、天候に左右されない農業を進めなきゃいけないとか、いろいろな課題が出てくると思います。平成五年に出てきた課題を解決し、新しく出てきた芽を育てる、それが平成六年かなという感じがします。

※小畑さんは大分の出身と聞きましたが、大館の印象はいかがですか？

小畑 雪が降るとか何とかという以前に、これが大館の駅前？



小畑 和子さん (高村)

という印象で、ちょっと寂しいなと思いました。

本多 駅前の開発もさることながら、お客さんが来た場合なんか、見せてやりたい本館の観光



本多 新悦さん (餌釣)

地が無いというのがこれからの課題かなと思うんですが。

市長 都市というのは一日にしてならずで、努力・継続して初

善室 美光 長 課長 室 務 長 司 会 場

めてものになってくると思うんです。急に観光といってもだめなんで、昔から引き継がれてきたものがあって、例えば曲田の聖堂のように、ずっと積み重ねられた地域独特の文化の背景があるものは、みんなも見たいし、興味があるものだと思うんです。街そのものもそうだと思うんですよ。昔からの建物が残っている、いいんだけど、残念ながらほとんど残っていない。そうになると、見せられる所は「大館の自然」とみんな言うんですよ。**本多** 地元の人が見てほしいところって、いい所に全然気が付かないでいる部分があるような気がしますね。例えば風穴とか。

小畑 それから、大館の人はPRがあまり上手じゃないような気がします。せっかくだけいものがあってもそれを生かしてきてないみたいで、もったいないなと思いますよ。

本多 きりたんぼにしてもそうですよね。ここ二、三年ようやく盛り上がりつつある感じがするけど、今までは、ただ店でお客さんに食べさせる程度で、全国的に広めようという気が少なかったんじゃないかなあ。

奈良岡 ゆうパックができて、ふるさと小包というので全国的に地方の産物が送られるようになってきたんだけど、こういう

